



LOVE CAR.
LOVE LIFE

クルマを大切にすると、人生も大切にすることなんだ



クルマを大切にすると、
人生も大切にすることなんだ



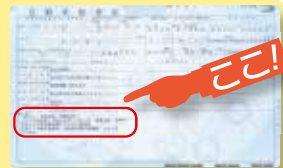
マイカーの点検・整備は愛する人への思いやりです



安全確保と環境保全には、クルマの点検・整備が必要です

平成26年2月から車検証の備考欄に点検・整備実施状況の記載を開始しました。詳しくは、QRコードをご参照。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha09_hh_000089.html



●自動車の点検・整備のことが詳しくわかります。

点検・整備

検索

www.tenken-seibi.com

■推進：国土交通省 自動車点検整備推進協議会

■後援：内閣府 警察庁 環境省

■協力：独立行政法人自動車技術総合機構 軽自動車検査協会 独立行政法人自動車事故対策機構

一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会
日本自動車輸入組合
一般社団法人 全国レンタカー協会
一般社団法人 日本損害保険協会
全国自動車電装品整備商工組合連合会
一般社団法人 日本自動車車体工業会

一般社団法人 日本自動車工業会
一般社団法人 日本自動車連盟
一般社団法人 日本自動車タイヤ協会
全国共済農業協同組合連合会
一般社団法人 自動車用品小売業協会
全国タイヤ商工協同組合連合会

一般社団法人 日本自動車販売協会連合会
一般社団法人 全国自家用自動車協会
全国石油商業組合連合会
全国労働者共済生活協同組合連合会
一般社団法人 電池工業会
全国自動車部品販売店連合会

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会
公益社団法人 日本バス協会
一般財団法人 自動車検査登録情報協会
一般社団法人 日本自動車部品工業会
全国ディーゼルのポンプ振興会連合会
一般社団法人 日本自動車部品協会

一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会
一般社団法人 全国ハイヤー・タクシー連合会
公益財団法人 日本自動車教育振興財団
全日本自動車部品卸商協同組合
日本自動車車体整備協同組合連合会
全国オートバイ協同組合連合会(順不同)



2017 自動車点検整備推進運動

安全確保と環境保全是クルマの点検・整備から。

日常点検や定期点検はクルマのトラブルを防ぐだけでなく、地球温暖化の原因であるCO₂の削減にもつながります。特に、長くご使用のクルマには、細やかな点検が欠かせません。日頃からクルマの健康管理を心がけましょう。

日常点検

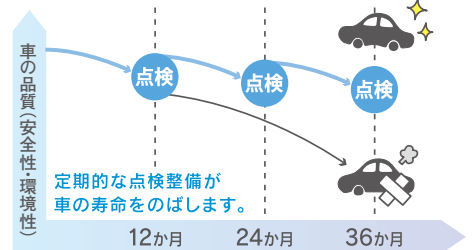
日頃、自動車を使用している中で、走行距離や運行状態などから判断し、適切な時期に点検を行うことが必要です。チェックしてみましょう。

定期点検

定期点検は、安全確保・環境保護の観点から、自家用乗用車については、1年ごとに実施しなければなりません。

車検（自動車の検査）は、安全・環境面で国が定める基準に適合しているかどうかを一定の期間ごとに確認するものであり、次の検査までの安全性等を保証するものではありません。したがって、使用者は日常点検整備や定期点検整備を確実に実施するとともに、使用に応じた適切な保守管理を行う必要があります。

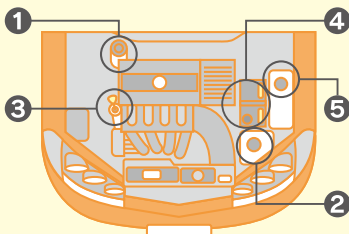
月日が経つと？（自家用乗用車）



マイカーを点検しよう! 日常点検 15項目チェックシート

判定 ○ or ×

日常点検 #01



エンジンルーム 5項目



1 ブレーキ液の量

ブレーキ液のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。液量が下限ラインより低い場合は、安易に補充せず、早急に整備のプロに相談しましょう。



2 冷却水の量

冷却水のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。この冷却水が下限ラインに近いが、それより少ない場合は、上限ラインまで冷却水を補充しましょう。



3 エンジン・オイルの量

エンジンに付いているオイル・レベルゲージを抜きとり、付属しているオイルを拭きとってから、ゲージをいっぱい差し込み、再度抜きとってオイルの量を見ます。ゲージの先端についている2本のラインが、ギザギザ部分の目印の中間にオイルがあれば合格です。ゲージの下限ラインよりもオイルが下側にあるときは補充しましょう。また、汚れている場合は交換しましょう。



4 バッテリー液の量

バッテリー液の量が規定の範囲（上限と下限の間）にあるかを車両を揺らすなどして点検します。バッテリー液は腐食性が強いので、体、衣服、車体などに付着しないよう注意しましょう。

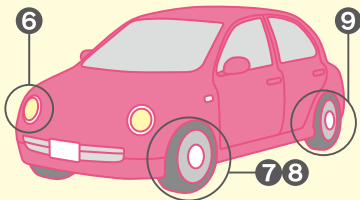


5 ウィンド・ウォッシャー液の量

ウィンド・ウォッシャー液の量が適当かを点検します。液量が少ない場合は上限まで補給しましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

日常点検 #02



クルマの周り 4項目



6 ランプ類の点灯・点滅

クルマにはヘッドライト、スモールランプ、ブレーキランプ、テールランプ、ウィンカーなど、多くのランプが付いています。点灯・点滅の有無を確認し、レンズの汚れや損傷も調べましょう。点灯・点滅していない場合は、すみやかに交換しましょう。



7 タイヤの亀裂・損傷の有無

タイヤの亀裂や損傷の有無を手で確認するとともに、タイヤに異物が付着していないかを入念に点検します。タイヤにかみ込んだ異物はきれいに取り除きましょう。また、タイヤが片減りしている場合は要注意。整備のプロに相談しましょう。



8 タイヤの空気圧

タイヤの接地部のたわみ具合を目で判断しましょう。接地部のたわみ具合で判断ができなければタイヤゲージを使って点検しましょう。タイヤの空気圧が不足している場合は、指定空気圧まで補充しましょう。

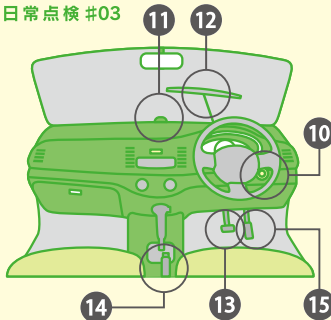


9 タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さが浅くないかをタイヤの接地面のスリップ・サインを目印に、チェックします。スリップ・サインは溝の深さが1.6mm以下になると、現れます。溝の深さが足りないと、スリップしやすくなり、雨天走行時はとても危険です。サインが現れたら、早急にタイヤを交換しましょう。*スリップ・サインは、タイヤ側面の三角マークのある位置の接地面に出現します。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

日常点検 #03



運転席 6項目



10 エンジンのかかり具合・異音

エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時やアイドリング状態で、異音がないかを点検します。



11 ウィンド・ウォッシャー液の噴射状態

ウィンド・ウォッシャー液を噴射させ、ワイパーの作動範囲に噴射されるかチェックします。また、その向きや高さが適当かを点検します。



12 ワイパーの拭き取り能力

ワイパーを動作させ、低速および高速の各作動が不良でないかを点検します。また、ウィンド・ウォッシャー液がきれいに拭き取れるかを点検します。ワイパーのから拭きは、ガラスを傷つけますので、ウィンド・ウォッシャー液を噴射してからワイパーを動作させましょう。



13 ブレーキの踏み残りしろと効き具合

エンジンをかけて異音がないかどうか確かめたらうえ、ブレーキ・ペダルを強く踏み込んだとき、床板との間（踏み残りしろ）が適当かどうか確認します。踏みごたえが「いつもと違うな」と感じたら要注意です。



14 駐車ブレーキの引きしろ（踏みしろ）

駐車ブレーキをいっぱい引いた（踏んだ）ときに、引きしろ（踏みしろ）が多すぎたり、少なすぎたりしないかを点検します。ブレーキ・ペダルと同様に、新車時や定期点検直後との違いを比較してください。



15 エンジンの低速・加速状態

エンジンを暖機させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くかを点検します。次に、エンジンを徐々に加速したとき、アクセル・ペダルに引っ掛かりがないか、スムーズに回転が上がるか、走行するなどして点検します。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※自家用乗用車の定期点検は、1年ごとに点検を行う項目が細かく決められており、整備のプロにまかせたほうが安心です。